

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
（分担）研究報告書

動作特異性ジストニアについての疫学調査に関する研究

研究分担者 望月秀樹 大阪大学神経内科・脳卒中科教授

研究要旨：音楽家のジストニアの疾病の認知度は70%台であり、疾患の周知が必要と考えられる。音楽家のジストニアはこれまで報告されていた初発年齢である35.7歳より早期に出現している可能性がある。音楽家としてキャリアが成熟する頃、極めて精緻な運動が要求される時期に出現する傾向があるとされていたが実際には早期よりジストニアが出現することは手指の運動以外の要素が病態に影響する可能性が考えられる。

A. 研究目的

音楽家のジストニアについて本邦における実態を明らかにする。

B. 研究方法

国内の二つの音楽大学において音大生に年齢、性別、利き手、専門、疾病の認識、演奏時のジストニア症の有無の項目につき、質問を行った。A大学では1-4年の580名の学生に調査票を直接配布し、97.9%の回収率を得た。B大学では1-4年の900名の学生に調査票を郵送し、12.9%の回収率を得た。

（倫理面への配慮）

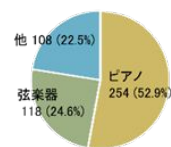
本研究は当院の倫理委員会の審査を通過後に行った。

C. 研究結果

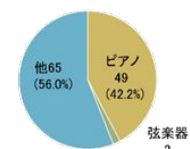
< 得られた回答 >

	年齢	性別 ^(人)	利き手 ^(人)
A大学	19.5±1.4 歳	F/M 417/63	R/L/both 442/37/1
B大学	21.4±5.9 歳	F/M 111/5	R/L/both 104/10/2

専門領域

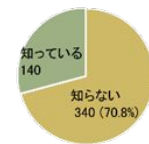


A大学

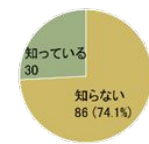


B大学 (人)

疾患の認知度

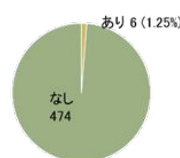


A大学

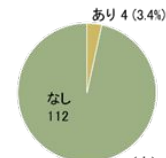


B大学 (人)

ジストニアを有するとの回答



A大学



B大学 (人)

D. 考察

疾病の認知度は70%台であり、疾患の周知が必要と考えられる。音楽家のジストニアはこれまで報告されていた初発年齢である35.7歳より早期に出現している可能性がある。音楽家としてキャリアが

成熟する頃、極めて精緻な運動が要求される時期に出現する傾向があるとされていたが実際には早期よりジストニアが出現することは手指の運動以外の要素が病態に影響する可能性が考えられる。

E. 結論

音楽大学生における音楽家のジストニアの疾病の認識は不十分である。音楽大学生における音楽家のジストニアの有病率を明らかにした。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

(発表誌名なし)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし